



ひょうごの農業改良普及事業

Agricultural Extension Service of Hyogo





1

農業改良普及事業 とは

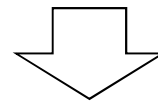


農業改良助長法に基づく 国と県との協同事業

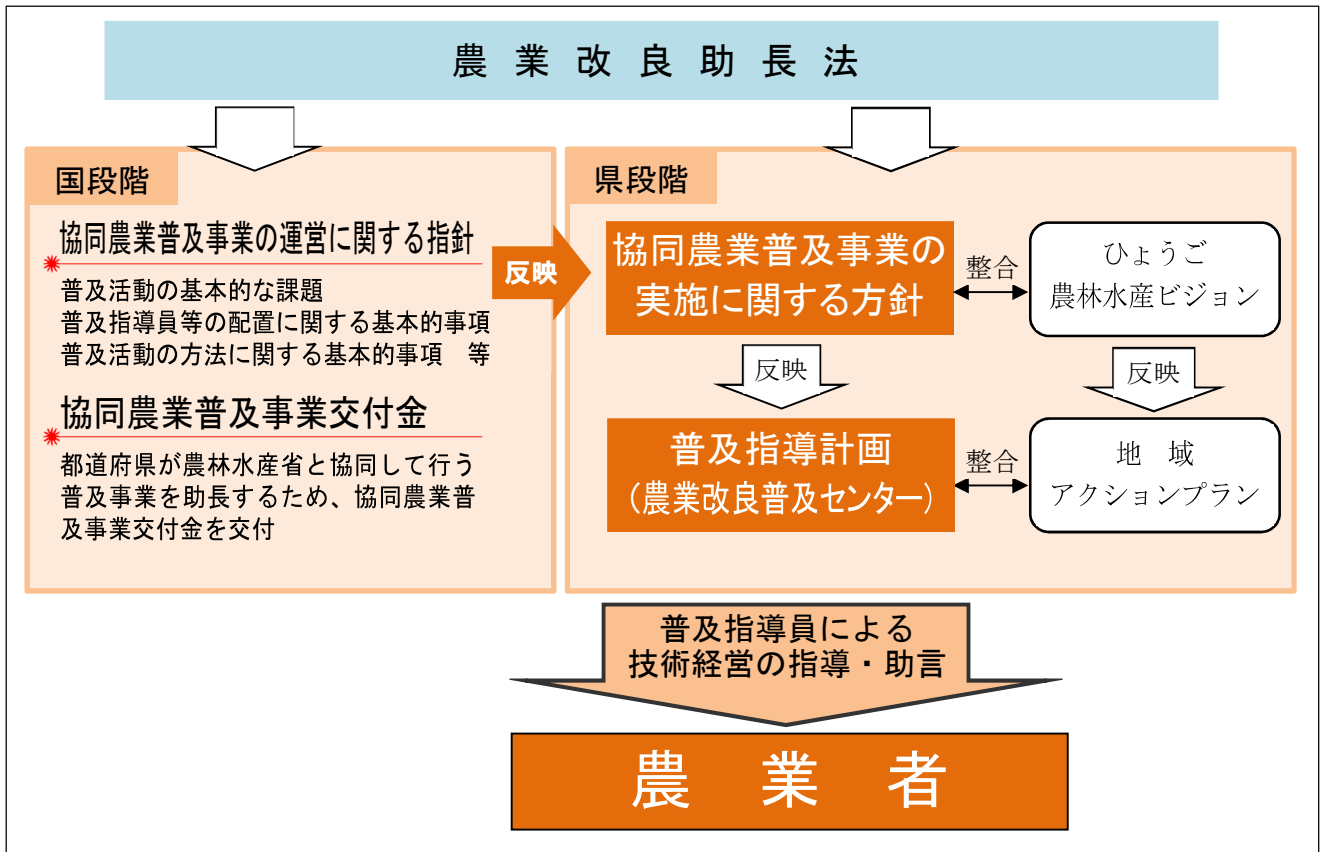
地域農業の生産性向上や農畜産物の品質向上を図り、効率的で安定的な農業経営を実現するため、

普及指導員が
直接農業者に接して
農業技術や経営の指導・助言

考える農民（農業者）の育成、主体的に農業経営及び農村生活の改善に取り組む農業者の育成



農業の持続的な発展及び
農村の振興を図る。



兵庫県の農業改良普及事業の推進の概要

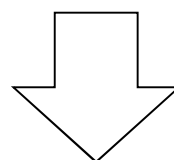
農林(水産)振興事務所
農業改良普及センター

農業者に対して普及指導活動を展開するため、各農林(水産)振興事務所の内部組織として、各地域の農業指導の中核拠点となる

13 農業改良普及センター

を置き、高度な農業技術・経営指導ができる

普及指導員 182 名 (2022 年度)
を配置



農林(水産)振興事務所
農業改良普及センター (13 か所)

■ 地域課

- ・ 集落営農組織等担い手の育成
- ・ 農村生活の改善の普及指導
- ・ 地域特産物の育成に係る専門技術・経営提案

■ 経営課

- ・ 認定農業者・新規就農者等担い手の育成
- ・ 高度な専門技術の普及、指導
- ・ 環境創造型農業の推進

※うち5か所の農業改良普及センターには「地域・経営課」を設置

農業改良普及センターの普及活動体制



2

普及指導活動の
体制



農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部

農林水産技術総合センターに企画調整・経営支援部を置き、野菜、果樹、土地利用型作物などといった専門ごとに現場経験と高度な専門知識を有する9名の専門技術員を配置している。

専門技術員は、現場ニーズを試験研究機関や行政機関に反映させるとともに、研究成果の普及促進や円滑な施策推進のための連携・調整活動を担い、地域の課題解決を図っている。また、普及指導員への研修や最新御技術情報の提供により資質向上を図っている。



専門技術員による普及指導員への技術力向上研修



3

農業改良普及 センターの役割 とは

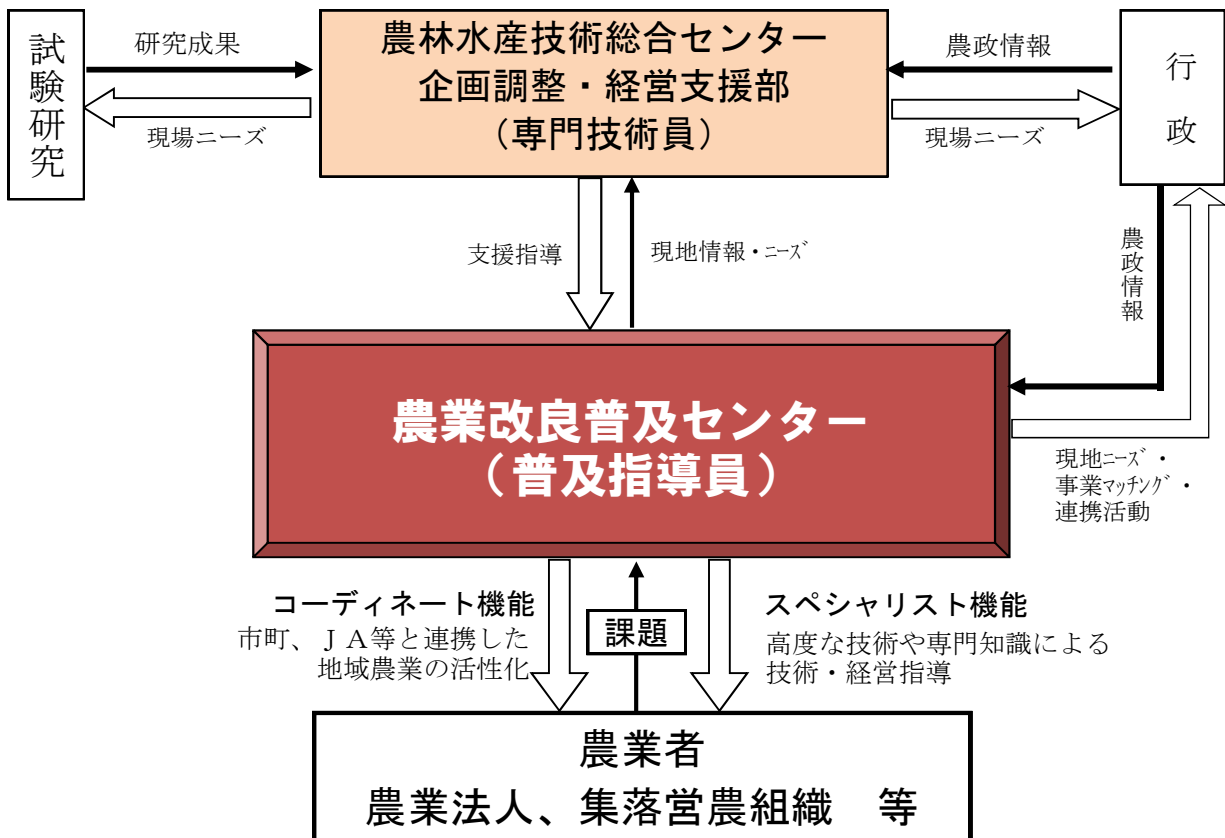


スペシャリスト 農業技術・経営指導の専門家

地域農産物の生産性向上やブランド化をめざし、普及指導員の高度な技術や専門知識により、試験研究機関で開発された技術や ICT 等を活用した最新技術を都市地域、中山間地域など地域条件に適した形に組み立てて普及・定着を図っている。また、担い手の経営分析や診断を実施し、農業経営の安定化を進めている。

コーディネーター 地域農業の橋渡し役

地域農業のさらなる活性化に向けて、新規就農者の育成や集落営農の組織化、特産物の産地育成、農村女性の活動促進などを進めるため、市町、JAなどの関係機関と連携して地域農業をコーディネートする役割を果たしている。



<農業改良普及センターを核とした連携図>

4

普及指導活動の 展開方向と事例



農業の基幹産業化を進めるため、各地域の風土に応じた個性ある農畜産物が安定的に生産され、かつ産業として力強い農業が展開できるよう、生産面のみならず流通販売面でも支援を行うことにより、地域特産物の生産拡大やブランド化、担い手の育成、6次産業化などを推進している。

(1) 需要に応える農業の競争力強化と持続的発展

ア 野菜等園芸作物の生産拡大

施設及び露地野菜の生産拡大

農業施設貸与事業等を活用したハウスの導入推進や、施設栽培に対応した技術指導を行うとともに、露地野菜の栽培体系の機械化による省力生産技術の普及など都市近郊の立地を活かした野菜産地の育成を図っている。

施設野菜では、ICTを利用して施設内の温度・湿度・二酸化炭素濃度等の環境測定やそれらを制御する技術の普及に取り組み、トマト栽培からいちご栽培へ波及させるなどスマート農業の拡大を図っている。

また、ねぎやにんにくなど立地条件を生かした新たな品目の産地化に向けた栽培指導を行っている。



トマト栽培での環境制御システム（加古川普及）



拡大しているにんにく栽培への指導（朝来普及）

市場ニーズに対応した花きの安定生産・供給

花きでは省力化、省エネ化等の技術実証、普及に取り組み、小ぎくではお盆や彼岸の時期に、ストックでは二期作栽培の一作目を年内に出荷するため、従来より低コストで安定した効果がある波長の遠赤色のLED電球による開花調整・生育促進技術の導入を推進し、高い市場評価を受けている。



小ギク栽培に導入された赤色LED（丹波普及）

(1)需要に応える農業の競争力強化と持続的発展

イ 土地利用型作物のブランド力向上

消費者や実需者のニーズに対応した主食用米、酒米、麦や豆類など土地利用型作物の安定生産とブランド力の向上に向けて、JAとの連携も図りながら優良品種や多収性品種への転換や品質向上、出荷量拡大などの実需者ニーズに対応するための技術実証や研修会の開催など、きめ細かな指導を展開している。さらにドローンを使用した病害虫防除や水稲栽培での自動制御による水管理等の試験導入などスマート農業への取組も支援している。

また、稲や麦、大豆の生産力の強化には、優良な種子の生産が不可欠であることから、主要農作物種子生産条例に基づき、種子品質の管理や計画的な生産について指導を行うとともに、種子生産ほ場での生育状況及び生産物の審査を行い、本県の農業生産の根幹を支えている。



ドローンによる黒大豆病害虫防除（上：丹波普及）
無人トラクターによる耕耘（下：朝来普及）



水稲多収性品種の生育状況を調査（光都普及）

高品質な果樹の生産拡大

いちじく、ぶどう、くり、なしやかんきつ類を重点品目とし、消費者ニーズにあった優良品種への転換や高品質化等を進めている。ぶどうでは、消費者の嗜好性の高い優良品種への更新や最高品質の「プラチナぶどう」の生産・出荷による収益向上を進めている。

くりでは、丹波地域において京都府と連携した品評会やイベントの開催などにより、生産拡大、品質向上や消費者の認知度向上を進めている。

また、淡路島なるとオレンジや山椒など根強い人気のある地域特産果樹の生産振興にも取り組んでいる



プラチナぶどう巡回現地研修（加西普及）

(1)需要に応える農業の競争力強化と持続的発展

ウ 環境創造型農業（人と環境にやさしい農業）の拡大

兵庫県は、環境創造型農業を本県農業の基本として推進している。

環境への負荷軽減に配慮しながら安全で高品質な農産物の生産を目指すとともに、次世代へ豊かで良好な農村環境を引き継いでいくため、平成30年度に「第二期環境創造型農業推進計画」を策定し、地球環境や生物多様性に配慮した環境創造型農業の推進に取り組んでいる。



ヘアリーベッチ（緑肥）の生育状況調査（加古川普及）

(1)需要に応える農業の競争力強化と持続的発展

エ 多様な担い手の確保育成

新規就農者成・確保のための支援

地域において着実な新規就農者の育成・確保及び定着を図るため、市町やJAと連携して農業改良普及センターが地域就農支援センターをワンストップ窓口と位置づけて活動している。

就農のための各種事業を活用しながら、就農希望者に対する相談、就農準備段階での指導農業者における技術習得や就農後の早期の経営確立のためのセミナー等を開催している。



管内で研修中の夫婦との相談会（朝来普及）

認定農業者等への技術・経営指導

経営改善意欲の高い認定農業者や地域の中核的な経営体などの担い手に対して収量や品質の向上等の収益性を高める技術の導入指導により、経営の安定・向上を図っている。

また、パソコンを活用した経営診断に基づく省力化やコスト低減などの指導により経営の改善・向上を進めつつ、地域農業の担い手の育成を図っている。



認定農業者を対象に消費税軽減税率について説明（南淡路普及）

集落営農の推進

地域農業を支える担い手として、市町や農業委員とも連携し、人・農地プランの策定支援や農地中間管理事業の活用を推進するとともに、集落の合意形成を促し、集落営農の組織化を進めている。

また、集落営農組織が持続的な担い手となるように集落営農組織協議会やリーダーを対象とした研修会の開催等により、収益性向上のための園芸作物の導入や低コスト化、法人化に向けた体制づくりなどを支援しながら、組織間の情報交換による相互研鑽も図っている。



集落営農組織の法人化に向けた役員との協議（丹波普及）

農山漁村における女性の活躍促進

農山漁村において、女性が安心して就農し、地域で担い手として活躍できるよう、就農時の相談活動や就農後の経営確立に向けた経営セミナーを開催している。

また、若手女性農業者グループや生活究グループなどを対象とした起業活動に関する研修や情報交換会を開催し、活動のステップアップや安定化を進めている。



若手女性農業者を対象にライフプランセミナーを開催（南淡路普及）

(1) 需要に応える農業の競争力強化と持続的発展

オ 畜産物のブランド力と生産力の強化

家畜保健衛生所やJA等関係機関と役割分担し、肉用牛では、但馬牛・神戸ビーフの生産基盤を拡大させるため、繁殖肥育一貫経営への誘導や飼料給与技術支援、繁殖管理技術の改善、規模拡大に際しての経営指導等を実施している。

中山間地域では、飼料費の低コスト化や飼養管理の省力化と耕作放棄地管理の省力化を図るため、耕種農家と畜産農家をマッチングするレンタカウ方式の放牧を推進している。また、乳用牛では、経営規模の拡大を図るため、飼養管理技術の改善とともに、機械・施設を利用した省力化の支援や経営を法人化する際の助言等を行っている。



レンタカウ方式の放牧（新温泉普及）



規模拡大した酪農家に導入された最新の搾乳ロボット（神戸普及）

(2) 新たな価値創出による需要の開拓

新たな需用や市場の積極的な開拓

GAP（農業生産工程管理）の取組の推進

農業者自らが農業生産工程全体を管理することで、適正な農業経営管理が確立し、品質向上、資材の不在在庫の減少、農作業事故の減少、従事者の責任感や自主性の向上等が実現でき、農業経営の効率化や安定につながるメリットがあるGAPの取組を推進している。



生産者対象のGAPの取組研修会（丹波普及）

(2) 新たな価値創出による需要の開拓

新たな需用や市場の積極的な開拓

6次産業化の推進

地域農産物を活用した加工品の開発などを行う農業者等に対して、民間のアドバイザーとも協力し、新商品開発、商品の販売促進、食品表示や衛生管理の徹底など、幅広い6次産業化の取組を支援している。

さらに、6次産業に取り組む農業者等の一層の経営向上を目的に、相互の情報交換や研鑽をとともに法人化などを支援も実施している。



加工事業者の衛生管理計画書作成を指導（豊岡・新温泉・朝来普及）